

公益社団法人私立大学情報教育協会
平成 28 年度第 1 回大学情報システム研究委員会議事概要

I. 日 時：平成 28 年 7 月 16 日(金) 13:00 から 15:00 まで

II. 場 所：私立大学情報教育協会事務局会議室

III. 参加者：岩井委員長、杉山委員、小川委員、藤本委員、ニッセイコム
事務局：井端事務局長、野本

IV. 検討事項

今年度の委員会活動は、これまで逐次答申してきた「学修ポートフォリオに対する理解の促進に向けて」、「学修ポートフォリオ導入に向けた共通理解の促進策」、「学修ポートフォリオ情報の活用対策と教職員の関わり方」に「eポートフォリオシステム構築、運用管理、導入事例と課題」を統合し、その結果を平成 29 年 5 月下旬の総会に最終答申として報告する予定にしていることを確認した。

その上で、本年度とりあげる検討事項の範囲として、「eポートフォリオシステム構築に伴う留意点の整理」、「eポートフォリオシステムを運用管理する留意点の整理」、「eポートフォリオシステムの導入事例と課題」の検討事項について、下記の通り意見交換した。

(1) eポートフォリオシステム構築に伴う留意点の整理

- ① ここでの狙いは、eポートフォリオの設計・開発をすることではなく、各大学がICTを活用してポートフォリオシステムを導入・整備する際に配慮すべき要件を整理することになっている。
- ② 構築に伴う留意点について、網羅的にとりあげる必要はなく、できるところで範囲だけを示し、特に重要な部分については検討・整理してはどうか。
- ③ ポートフォリオでとりあげるべき最小限必要な機能を絵で提示できないか。
- ④ 文部科学省の施策を先取りする形で、学修行動調査や一週間ごとの学修行動を把握するための機能を考えておくべきではないか。
- ⑤ eポートフォリオを構築する際には、利便性を重視したシステムについて大学として検討する必要がある。
- ⑥ 教員の負担を軽減するために、ワンタッチで閲覧・書き込み・フィードバック・シラバスへの連動などの仕組みが考えられないか。
- ⑦ 学生にポートフォリオを利用させるようにするには、ワークシートへの書き込みを授業評価の一つとして取り入れることが必要ではないか。
- ⑧ 学生が手軽に書き込みできるようにするには、スマホなどで入力できるようにすることが必須条件ではないか。
- ⑨ Google や LINE などグループ間で学びを行っている場合もあるので、コミュニケーションを中心とする SNS などを利用しながら、学修成果を蓄積・報告する手段としてのポートフォリオ利用ができるような形態も考えられないか。
- ⑩ ID、パスワードを何回も入力するシステムでは、ログインに手間取り利用しづらいことから、シングルサインオンや入り口のポータル化などを考える必要がある。
- ⑪ フィードバックの機能として、褒める、共感する、励ます、ねぎらう、寄り添うなどのコ

メントをテンプレートとして準備しておくことが必要ではないか。

- ⑫ ポートフォリオに載せるデータとしては、例えば読書による感想文、街歩きによるフィールド調査報告、外国語を用いた会話実践などの学修行動記録や写真をエビデンスとして掲載してはどうか。
- ⑬ ポートフォリオを可視化するには、レーダーチャートが有効である。例えば、卒業生のポートフォリオと自分のポートフォリオをレーダーチャートで示すことにより、自分の達成度を確認することができるようになるのではないか。

(2) eポートフォリオシステムを運用管理する留意点の整理

- ① eポートフォリオをデータベース化する上での基本的な留意点とシステムを運用管理するための体制について整理することになっている。
- ② ポートフォリオと既存システムを接続してIRとして運用管理するためには、別途新たな費用が発生するので財源確保が必要となる。
- ③ 運用管理の問題として、サポートデスクや機器の保守体制の整備が必要となるが、その対策としてクラウド利用による技術的サポートの負荷を軽減する方法がある。
- ④ ICTに不慣れな教員を支援するため、TAや学生による協力体制が必要となる。
- ⑤ ヘルプデスクやネットでのファシリテータによる呼びかけを行うことで、学生にポートフォリオの活用を促す必要があるのではないか。

(3) eポートフォリオシステムの導入事例と課題の紹介

- ① 市販のeポートフォリオシステムとフリーのeポートフォリオシステムと独自開発のeポートフォリオシステムを導入している大学の活用事例を紹介するとともに、それぞれのシステムの特長を整理し、その上、大学が求める対応に合わせて機能・運用管理及びコストの面から課題を抽出することになっている。
- ② eポートフォリオの導入事例として紹介するのは、キャリア教育や初年次教育の中で自分を振り返るツールとしての活用例を提示してはどうか。
- ③ システムとして考えるべき点は、既存システムとの整合性、活用が進んだ後の展開、サポート体制、段階的な予算確保などがあり、パッケージ・オープンソース・独自開発システムそれぞれのメリット・デメリットが整理できないか。
- ④ 文部科学省の補助事業としてeポートフォリオシステムを導入した場合に、補助事業が終了してもシステムの継続・維持が可能となるよう財源確保が課題となる。

V. 今後の検討の進め方について

次回の委員会は10月1日に開催し、「eポートフォリオシステム構築に伴う留意点の整理」、について意見を持ち寄り検討することになっている。